

## ご挨拶

中村研一記念小金井市立はけの森美術館は、財団法人中村研一記念美術館から建物およびコレクションの寄贈を受け、本市唯一の市立美術館として平成 18 年 4 月に開館いたしました。延床面積 775.1㎡、展示室数 2 という小規模な館ですが、多くの方々に支えていただき、おかげさまで、これまでに延べ 4 万人を超える方々に当館にお越しいただきました。

この間、当館においては、平成 23、24 年度に 2 階部分の改修工事を行い、新たに多目的講義室を整備いたしました。開館当初から目的として掲げている“市民参加・参画型の美術館”として展覧会に関連する講座、親子向けのプログラムや美術への親しみを深めてもらうための創作ワークショップなど、当館ならではの教育普及事業や新たな事業の実施など、この多目的講義室を最大限に活用していく取組も進めているところです。

また、昨年度（平成 25 年度）には、当館初の試みである全国の公立美術館 3 館を巡る共同巡回展を開催いたしました。公立小規模館単独ではなかなか開催が難しい規模の展示を行うことで、市内外問わず多くの方々にご来館いただくなど、より多くの方々に当館を知って頂くことができたことに加え、少なからず公立美術館としての地域への貢献ができたものと思っております。

こうした取組みを皆様にお伝えするため、この度平成 23 年度から平成 25 年度までの 3 年間の活動をまとめ、年報を刊行することいたしました。

今後も、市民に寄り添い、親しまれる美術館として、引き続き精力的な活動を行ってまいりたいと考えておりますので、多くの皆様に本年報をご覧いただき、当館の活動内容についてのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

むすびにあたり、これまで当館を支えていただいた多くの皆様方に感謝申し上げるとともに、今後もより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

小金井市立はけの森美術館館長

平岡良一

# 目次

1. 沿革	5
2. 平成 23 (2011) 年度	
1. 展覧会	6
2. 教育普及事業	15
3. 平成 24 (2012) 年度	
1. 展覧会	17
2. 教育普及事業	26
4. 平成 25 (2013) 年度	
1. 展覧会	27
2. 教育普及事業	42
5. 作品及び資料	46
6. 広報活動	48
7. 刊行物・販売物	50
8. 調査研究	52
9. 管理運営	
1. 日誌	54
2. 入館者数	58
3. 予算一覧	59
10. 資料	60
11. 関連条例・規程	63
12. 施設概要	70

## 凡例

- 一、本年報は、平成 23 年度から 25 年度までの小金井市立はげの森美術館の活動内容を収録している。
- 一、展示リスト記載内容は、展示が開催された時点でのものに基づいている。  
そのため、作品名等が現在使用しているものとは必ずしも一致しないが、そのまま掲載した。
- 一、展示リストにおいて、特に記載のない作品は小金井市立はげの森美術館の所蔵である。

# 1. 沿革

平成元年（1989）	5月	中村研一記念美術館開館
平成3年（1991）	2月	中村研一記念美術館を財団法人化、財団法人中村研一記念美術館とする
平成13年（2001）	3月	（財）中村研一記念美術館が「財団法人中村研一記念美術館を小金井市へ寄贈しますことの嘆願書」を小金井市に提出する
平成15年（2003）	2月	小金井市内の1000世帯に対して「美術館に関するアンケート」調査を実施する
平成15年（2003）	6月	（仮称）中村研一記念美術館管理運営基本計画策定委員会設置要綱が施行され、（仮称）中村研一記念美術館管理運営基本計画検討委員会が設置される
平成15年（2003）	8月	小金井市に対して、（財）中村研一記念美術館から寄附申出書が提出される
平成15年（2003）	9月	小金井市議会において、（財）中村研一記念美術館よりの負担付き寄附が議決される
平成15年（2003）	11月	（仮称）中村研一記念美術館管理運営基本計画策定委託 美術館運営・展示ボランティア養成講座 ワークショップ「みんなの美術館づくり～美術館運営にあなたも～」(全5回、～12月)が実施される
平成16年（2004）	3月	（仮称）中村研一記念美術館管理運営基本計画策定委員会より小金井市に「（仮称）中村研一記念美術館管理運営基本計画策定調査報告書」、「『小金井市民の美術館』をめざして（仮称）中村研一記念美術館管理運営基本計画策定委員会 提言」が提出される
平成16年（2004）	6月	小金井市が中村研一記念美術館寄附を受領する
平成16年（2004）	11月	（仮称）小金井市立美術館管理運営実施計画検討委員会設置要綱が施行され、小金井市立美術館管理運営実施計画検討委員会が設置される
平成17年（2005）	6月	（仮称）小金井市立美術館管理運営実施計画検討委員会より小金井市に「（仮称）小金井市立美術館管理実施計画について〔中間提言〕」が提出される
平成17年（2005）	9月	小金井市議会第3回定例会で「小金井市立はけの森美術館条例」が可決され、美術館名称を「小金井市立はけの森美術館」に決定する
平成18年（2006）	2月	（仮称）小金井市立美術館管理運営実施計画検討委員会より小金井市に「小金井市立はけの森美術館 管理実施運営計画について―提言―」が提出される
平成18年（2006）	4月	小金井市立はけの森美術館開館、「小金井市立はけの森美術館条例施行規則」が施行される
平成23年（2011）	3月	「開館5周年記念特別展 中村研一展 制作の軌跡・日常の跡形」開催
平成25年（2013）	4月	2階部分の改修工事により、新たに多目的講義室が開設される

## 2. 平成 23 (2011) 年度

### 1. 展覧会

#### 所蔵作品展



料理して妻を待つ ～中村研一と日常のモチーフ～

会 期 平成 24 年 3 月 27 日 (火) ～ 5 月 20 日 (日)

会 場 1 階・2 階展示室

開催日数 48 日

観 覧 料 一般 200 円、小中学生 100 円

※未就学児、障害手帳をご提示の方は無料

入場者数 1,706 人

一日平均 35 人

出品点数 62 点 (1 階 49 点, 2 階 13 点)

担 当 者 神津瑛子



#### 開 催 趣 旨

本展覧会では、中村研一（1895-1967）が生涯を通じて最も多く描いたモデルである富子夫人の肖像画を中心に、伴侶へ向ける愛情が感じられる作品群を、夫婦を取材した当時の記事や写真資料等と併せて展示した。「身長五尺四寸、大型の方で、要するに健康美人ということになるであろう」と妻について語った中村が、いかに妻の“健康美”に魅了され、創作を行っていたかを作品を通して紹介した。

2 階展示室では中村の料理愛好家としての一面を特集した。晩年の日記に“夕方久々に料理して妻を待つ”とあるように若い頃から台所に立つことを好んでいた中村は、料理エッセイやレシピなど多く執筆している。仲睦まじい食卓の様子と食材をモチーフにしたユーモラスな素描や陶芸作品と共に、料理エッセイやレシピも紹介した。

関連事業

(1) ワークショップ

①切って貼ってコラージュ・クッキング

内容：平成20年度から所蔵作品展の関連企画として、コラージュ創作のワークショップを開催している。平成23年度は、中村研一の料理好きにちなみ、色々な紙や毛糸をコラージュし、アートなごちそうを創作した。

日時：平成24年4月22日（日）13：30～15：00

参加費：無料（要観覧券）

対象：小学生以上

会場：2階ラウンジ

参加者：11人



②クラフトでラブラブ&ハッピー大作戦

内容：第2回のコラージュワークショップでは夫婦愛をテーマにした本展に関連し、大好きな人や家族へ想いを伝えるカードやオーナメントを創作した。

日時：平成24年5月6日（日）13：30～15：00

参加費：無料（要観覧券）

対象：どなたでも

会場：2階ラウンジ

参加者：5人

主要関連記事

(1) 新聞

「美博ピックアップ 料理して妻を待つ 中村研一と日常のモチーフ 小金井市立はけの森美術館」朝日新聞（夕刊）、2012年4月11日

「妻と料理 中村研一作品展」産経新聞、2012年4月18日

「『料理して妻を待つ 中村研一と日常のモチーフ』展」しんぶん赤旗、2012年3月28日

(2) 雑誌

「特集 市立はけの森美術館 所蔵作品展『料理して妻を待つ～中村研一と日常のモチーフ～』」『かたらい』36号、2012年9月

「所蔵作品展 料理して妻を待つ～中村研一と日常のモチーフ」『多摩ら・び』No.73、2012年4月

(3) 放送

「多摩ふれあい交差点」エフエム小金井放送、2013年4月7日放送・4月9日再放送

[作品リスト]

料理をして妻を待つ ～中村研一と日常のモチーフ～ 会期 平成24年3月27日(火)～5月20日(日)

作者	題名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	
1階展示室	中村研一	赤布	制作年不詳	油彩・カンヴァス	53.0 × 45.5cm
		室内図 (居室兼茶ノ間兼画室兼書斎図)	1930年	インク、墨、水彩・紙	26.5 × 35.5cm
		灯笼	制作年不詳	墨・紙	62.0 × 35.0cm
		家居	1945年	油彩・カンヴァス	33.5 × 24.5cm
		アトリエにて	1947年	油彩・カンヴァス	45.5 × 28.0cm
		婦人像	制作年不詳	油彩・カンヴァス	41.0 × 31.8cm
		読書	制作年不詳	墨・紙	32.0 × 24.0cm
		富子像	制作年不詳	インク、水彩・紙	33.0 × 24.0cm
		居間	制作年不詳	インク、水彩・紙	38.0 × 53.0cm
		画室	1949年	油彩・カンヴァス	116.7 × 90.9cm
		夏	1950年	油彩、キャンバス	116.7 × 90.9cm
		小金井住家の図	1958年	墨、彩色・紙	30.0 × 60.0cm
		木陰	1963年頃	油彩・カンヴァス	91.0 × 116.5cm
		婦人像 (緑陰)	制作年不詳	クレパス・紙	34.0 × 23.0cm
		庭	制作年不詳	インク・紙	35.0 × 28.0cm
		紅梅	1946年	水彩・紙	34.0 × 25.0cm
		笹	1946年	水彩・紙	34.0 × 25.0cm
		雪梅	制作年不詳	墨・紙	25.0 × 33.0cm
		筍	制作年不詳	鉛筆、水彩・紙	23.0 × 28.0cm
		あやめ	制作年不詳	墨・紙	28.0 × 34.0cm
		紫陽花	制作年不詳	墨・紙	27.0 × 29.0cm
		紫陽花	制作年不詳	墨、彩色・紙	24.0 × 30.0cm
		蛙	制作年不詳	墨・紙	28.0 × 20.0cm
		野草	制作年不詳	水彩・紙	33.0 × 24.0cm
		ドクダミ	制作年不詳	インク・紙	30.0 × 24.0cm
		つゆくさ	制作年不詳	墨、彩色・紙	31.0 × 45.0cm
		虎ノ尾	制作年不詳	墨、彩色・紙	33.0 × 25.0cm
		虎ノ尾	制作年不詳	墨、彩色・紙	33.0 × 24.0cm
		ゆり	1946年	インク、水彩・紙	60.0 × 45.0cm
		朝顔	制作年不詳	鉛筆、水彩・紙	35.0 × 27.0cm
		松	制作年不詳	水彩・紙	34.0 × 25.0cm
		赤松	1946年	墨、彩色・紙	32.0 × 27.0cm
		キキョウ	1946年	墨、水彩・紙	24.0 × 29.0cm
		ふしくるせんのう	1946年	インク、墨、水彩・紙	26.0 × 34.0cm
		ナデシコ	制作年不詳	鉛筆、水彩・紙	34.0 × 24.0cm
		秋海棠	制作年不詳	水彩・紙	36.0 × 25.0cm
		野菊	制作年不詳	水彩・紙	33.0 × 24.0cm
		つゆ草	制作年不詳	水彩・紙	26.0 × 22.0cm
		つる草	制作年不詳	水彩・紙	34.0 × 22.0cm
		芒	制作年不詳	墨、彩色・紙	34.0 × 25.0cm
		赤まんま	制作年不詳	水彩・紙	33.0 × 24.0cm
		千両	制作年不詳	インク、墨・紙	32.0 × 23.0cm
		花を生ける	1963年	油彩・カンヴァス	91.0 × 72.8cm
バラ (イタリアの壺)	1965年	油彩・カンヴァス	80.5 × 65.5cm		
静物 (はくさい)	制作年不詳	墨、水彩・紙	30.0 × 23.0cm		
あこう	1946年	水彩・紙	22.0 × 25.0cm		
ロブスター	制作年不詳	墨、水彩・紙	32.0 × 43.0cm		
野菜	制作年不詳	墨、水彩・紙	14.0 × 20.0cm		
ひでひら碗	制作年不詳	インク、墨・紙	16.0 × 22.0cm		
2階展示室	中村研一	瀬戸絵付飾皿 レモン図	1950年頃以降	陶器	
		瀬戸絵付 すみれ図デミタス	1950年頃以降	陶器	
		出雲 雉頭付浅皿	1950年頃以降	陶器	
		出雲 羊頭付浅皿	1950年頃以降	陶器	
		出雲 鶏頭付浅皿	1950年頃以降	陶器	
		出雲深皿 果物図		陶器	
		出雲耳付角皿 鶏図	1950年頃以降	陶器	
		出雲耳付角皿 菜果図	1950年頃以降	陶器	
		九谷 深鉢	1958年	陶器	
		九谷小皿 旦那様用・奥様用	1950年頃以降	陶器	
		出雲 婦人像飾皿	1954年	陶器	
		瀬戸 野菜図丸皿 (6点セット)	1950年頃以降	陶器	
		筍	制作年不詳	鉛筆、水彩・紙	19.0 × 26.0cm

## 企画展



江戸糸あやつり人形結城座 ～糸し糸しと言ふ心～

会 期 平成23年6月1日(水)～7月3日(日)

会 場 1階展示室

開催日数 29日

観 覧 料 一般400円、小中学生200円

※未就学児、障害者手帳をご提示の方は無料

入場者数 876人

一日平均 30人

担 当 者 神津瑛子

企画協力 江戸糸あやつり人形結城座

協 力 東京学芸大学デザイン研究室

小金井市文化財センター

助 成 平成23年度芸術文化振興基金



### 開催趣旨

370余年の歴史を持ち、国記録選択無形民俗文化財および東京都無形文化財の指定を受けている、日本唯一の伝統的な江戸糸あやつり人形劇団、「結城座」。現在の拠点を小金井市に構えている「結城座」の世界は、江戸時代から今日まで変わらず人々の心を惹きつけている。人形を含む全ての道具類は結城座固有の規格であり、現代アーティストとのコラボレーションによってデザインされたものも存在する。

本展覧会では、普段見ることのできない人形や道具類などを展示、また古典と新作の芝居空間を出現させ、舞台の表と裏から「結城座」の魅力を紹介した。

2階展示室では夏の題材を中心に、当館が所蔵する中村研一の作品を紹介した。

関 連 事 業

(1) 講演会「いとをかし人形ばなし」

内 容：人形遣いの結城千恵氏を講師に迎え、展示資料を解説しながら、結城座の歴史について、また人形の歴史全体を江戸文化を通して講演した。

日 時：平成 23 年 6 月 11 日（土）13：00～13：30

講 師：結城千恵（江戸糸あやつり人形結城座人形遣い）

会 場：1 階展示室・2 階ラウンジ

参加費：無料（要観覧券）

参加者：22 人



(2) ワークショップ「いとをかし人形あそび」

内 容：舞台ではわからない人形の仕組みや秘密を知るため、座長を務める十二代目結城孫三郎氏の指導の下、参加者が実際に人形に触れて、動かす体験ワークショップを開催した。

日 時：平成 23 年 6 月 26 日（日）13：00～15：00

講 師：十二代目結城孫三郎（江戸糸あやつり人形結城座・座長・人形遣い）

会 場：2 階ラウンジ

参加費：無料（要観覧券）

対 象：小学生以上（小学 4 年生以下は保護者同伴）

参加者：16 人



主要関連記事

(1) 新聞

「糸し糸しと言ふ心 江戸糸あやつり人形『結城座』展 はげの森美術館で開催中」小金井新聞、2011 年 6 月 21 日

「糸あやつり人形学びませんか 結城座が入門塾」毎日新聞、2011 年 6 月 11 日

[作品リスト]

江戸系あやつり人形結城座 ～糸し糸しと言ふ心～ 会期 平成23年6月1日(水)～7月3日(日)

演目・役名	公演年	備考
1階展示室 頭(カシラ)		
『草摺引』《五郎》		
『小鍛冶』《小狐丸》		
『伽羅先代萩』《八汐》		
『本朝廿四孝(ほんちょうにじゅうしこう)』《八重垣姫》		
『日高川』《清姫》《ガブ/仕掛けの頭》		
『鈴が森』《白井権八》《江戸時代の一一般的な女房役》		
『浮世の奈落 黙阿 MIX もくあみっくす』《田之助》		
『釣女』《醜女(しこめ)》		
『東海道中膝栗毛』《弥次郎兵衛》		
『橋弁慶』《牛若丸》		
『橋弁慶』《弁慶》		
『森の中の海』《王子》《坊主》《百合姫》	2007年	デザイン/寺門孝之
『乱歩・白昼夢』《芋虫》《鷲尾少将》《時子》《屋根裏の散歩者》《郷田》	2009年	デザイン/宇野亜喜良
『ユビュ王』《王妃》《ユビュおっ母》《ユビュ王》《王子》	2000年	デザイン/結城美栄子
『ペレアスとメリザンド』《医者》《ジュヌヴィエーヴ》《メリザンド》《ペレアス》	1992年	デザイン/串田和美
『夢の浮橋』《藤壺》《源氏》	2004-05年	デザイン/山口小夜子
写し絵種板		
『注文の多い料理店』	2006年	
『浮世の奈落 黙阿 MIX もくあみっくす』	2010年	
江戸写し絵幻灯機「風呂」		
板絵『三番叟』九代目結城孫三郎直筆		
代表作ポスター 14枚		
パネル資料・デザイン画(5作品)		
『新版歌祭文・野崎村の壇』人形《お染》《久松》《お常(後家)》		
・大道具・小道具・舞台関連資料および公演写真		
『三島近代能楽集』人形「邯鄲」《二郎》《菊》《老国手》《秘書》《美女》《赤ちゃん》		
『葵の上』《六条康子》《若林光》《若林葵》・大道具・小道具・舞台関連資料		

2階展示室 作者	題名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
中村研一	旧画室	1947年	墨・水彩、紙	49.0×34.0cm
	富子像	制作年不詳	インク・水彩、紙	33.0×24.0cm
	室内図(居室兼茶ノ間兼画室兼書斎図)	1930年頃	墨・水彩、紙	26.5×35.5cm
	婦人像	制作年不詳	油彩、カンヴァス	33.5×24.5cm
	午睡	制作年不詳	油彩、カンヴァス	18.2×27.3cm
	芸人	制作年不詳	墨、紙	25.0×30.0cm
	歌手	制作年不詳	インク、紙	35.0×25.0cm
	人物	制作年不詳	墨・インク、紙	18.0×21.5cm
	自画像	制作年不詳	インク、紙	30.0×23.0cm
	休憩	制作年不詳	鉛筆、紙	33.0×21.0cm
	休憩	制作年不詳	インク、紙	25.0×35.0cm
	女	制作年不詳	油彩、板	27.0×21.0cm
	踊子	制作年不詳	墨、紙	26.0×21.0cm
	顔	制作年不詳	墨・水彩、紙	27.0×32.0cm
	自画像	制作年不詳	墨、紙	15.0×11.0cm
	紫陽花	制作年不詳	墨・水彩、和紙	24.0×30.0cm
	蛙	制作年不詳	墨、紙	29.0×24.0cm
	海水浴	制作年不詳	油彩、カンヴァス	31.8×40.9cm
	初夏	1957年頃	油彩、カンヴァス	45.5×53.0cm
	立像	1949年	油彩、カンヴァス	91.0×72.7cm
	九谷水指 銘 七夕	1950年頃以降	陶器	
	備前花生	1950-1962年頃	陶器	
	信楽花生	1950年頃以降	陶器	
	信楽花生	1950年頃以降	陶器	
	常滑水指 銘 秋野	1957年	陶器	
	信楽水指	1961年	陶器	
	備前杵形	1950年頃以降	陶器	
	出雲赤まんま図花瓶	1950-1960年頃	陶器	
	備前カップ	1950年頃以降	陶器	
	九谷深鉢	1958年	陶器	
	九谷栗図飾皿	1950年頃以降	陶器	
	出雲取手付猫面壺	1950-1959年頃	陶器	
	瀬戸絵付レモン図飾皿	1950年頃以降	陶器	
	瀬戸薔薇図丸皿	1950年頃以降	陶器	
	瀬戸紫陽花図飾皿	1950年頃以降	陶器	



朝倉文夫の猫たち

会 期 平成 23 年 7 月 16 日 (土) ~ 9 月 19 日 (月・祝)  
 会 場 1 階展示室 (2 階 関連展示「はげの森の猫たち」)  
 開催日数 57 日  
 観 覧 料 一般 500 円、小中学生 200 円  
 ※未就学児、障害手帳をご提示の方は無料  
 入場者数 2,732 人  
 一日平均 47 人  
 出品点数 26 点 (2 階 27 点)  
 担 当 者 荒木和  
 企画協力 台東区立朝倉彫塑館  
 協 力 東京学芸大学デザイン研究室



開 催 趣 旨

柔らかかで可愛らしい、でも時折見せる野性的な行動がどこか神秘的。無愛想だったり甘えてきたりと気まぐれ……古今東西の多くの芸術家が、そんな猫という動物に惹かれ、作品のモチーフともしてきた。《墓守》(1910 年) や《大隈重信像》(1932 年) で知られる日本近代彫塑の大家、朝倉文夫 (1883-1964) もその 1 人であり、一時は自宅に 19 匹もの猫を飼っていたという。展覧会出品や外部からの注文を意識することなく生涯にわたって作られた様々な姿の猫たちは、朝倉の側で気ままに過ごしていた中の一瞬をそのまま写し取られたかのように、誰にでも親しみやすい作品となっている。本展覧会は、朝倉のかつての自宅兼アトリエであった台東区立朝倉彫塑館が所蔵するブロンズの猫像全 26 点を中心に、関連資料を加えて展示を行った。また 2 階展示室では、当館所蔵作品から“猫”をモチーフにした作品を中心に紹介した。

関 連 事 業

(1) 講演会「猫と作家と彫刻のこと」

内 容：彫塑家・朝倉文夫の人物像と芸術について、猫に関わるエピソードを中心に講演した。

日 時：平成 23 年 7 月 24 日（日）14：00-15：30

講 師：村山万介（台東区立朝倉彫塑館研究員）

参加費：無料（要観覧券）

会 場：2 階ラウンジ

参加者：11 人



(2) ワークショップ「ねこのいちにち」

内 容：展示されている猫像を参考に、猫のポーズや動きを採り入れた身体ワークショップを開催した。

日 時：平成 23 年 8 月 19 日（金）15：00～17：30

講 師：尾崎英世（ダンスインストラクター）

参加費：無料（要観覧券）

会 場：1 階展示室、2 階ラウンジ

対 象：小学生以上（小学 4 年生以下は保護者も参加）

参加者：12 人（他、発表会見学 6 人）



主要関連記事

(1) 新聞

「彫刻展 NEKO 朝倉文夫の猫たち はげの森美術館」『Weekly News 西の風』第 1120 号、2011 年 8 月 5 日

(2) 雑誌

「『朝倉文夫の猫たち』開催！」『猫だより』No. 59、2011 年 8 月 12 日

「朝倉文夫の猫たち」『猫生活』vol.23、2011 年 9 月 1 日

「朝倉文夫の猫 38 匹が勢ぞろい—小金井市立はげの森美術館で」『月刊美術』No. 432、2011 年 9 月号

[ 作品リスト ]

朝倉文夫の猫たち 会期 平成 23 年 7 月 16 日 ( 土 ) ~ 9 月 19 日 ( 月 ・ 祝 )

作者	題名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵		
1階展示室	朝倉文夫	吊された猫	1909年	ブロンズ	51.5 × 29.0 × 22.0	台東区立朝倉彫塑館	
		産後の猫	1911年	ブロンズ	37.0 × 19.5 × 31.0	台東区立朝倉彫塑館	
		居眠る猫	1914年	ブロンズ	17.0 × 55.0 × 17.0	台東区立朝倉彫塑館	
		はるか	1918年頃	ブロンズ	21.0 × 18.5 × 24.0	台東区立朝倉彫塑館	
		追羽子	1919年	ブロンズ	10.5 × 22.0 × 37.0	台東区立朝倉彫塑館	
		背のびする猫	* 1921年頃	ブロンズ	22.5 × 37.5 × 9.0	台東区立朝倉彫塑館	
		猫	1922年	ブロンズ	30.5 × 13.0 × 29.0	台東区立朝倉彫塑館	
		仔猫の群	1927年	ブロンズ	16.5 × 24.5 × 24.5 11.0 × 12.0 × 19.0	台東区立朝倉彫塑館	
		たま	1930年	ブロンズ	45.0 × 30.0 × 29.0	台東区立朝倉彫塑館	
		親子猫	1935年	ブロンズ	16.5 × 43.0 × 26.5	台東区立朝倉彫塑館	
		餌食む猫	1942年	ブロンズ	34.0 × 39.0 × 20.0	台東区立朝倉彫塑館	
		眠り	1945年	ブロンズ	13.5 × 38.0 × 34.0	台東区立朝倉彫塑館	
		よく獲たり	1946年	ブロンズ	52.5 × 28.5 × 57.0	台東区立朝倉彫塑館	
		のび	1947年	ブロンズ	42.0 × 18.5 × 38.0	台東区立朝倉彫塑館	
		狙う猫	1947年	ブロンズ	17.0 × 70.0 × 20.0	台東区立朝倉彫塑館	
		眈々	1952年	ブロンズ	19.5 × 62.0 × 22.0	台東区立朝倉彫塑館	
		愛猫病めり	1958年	ブロンズ	34.5 × 20.0 × 45.0	台東区立朝倉彫塑館	
		猫母子	* 不詳	ブロンズ	11.5 × 23.5 × 16.0	台東区立朝倉彫塑館	
		いこう猫	* 不詳	ブロンズ	14.5 × 25.5 × 25.0	台東区立朝倉彫塑館	
		猫	* 不詳	ブロンズ	5.5 × 17.0 × 19.0	台東区立朝倉彫塑館	
		寝ている猫	* 不詳	ブロンズ	9.0 × 46.0 × 28.0	台東区立朝倉彫塑館	
		乳を与える猫	* 不詳	ブロンズ	20.5 × 26.5 × 32.0	台東区立朝倉彫塑館	
		丸まって寝ている	* 不詳	ブロンズ	8.0 × 21.0 × 16.5	台東区立朝倉彫塑館	
		猫	* 不詳	ブロンズ	34.0 × 16.5 × 22.5	台東区立朝倉彫塑館	
		猫	* 不詳	ブロンズ	11.5 × 46.0 × 25.5	台東区立朝倉彫塑館	
		見つめる猫	* 不詳	ブロンズ	11.0 × 10.0 × 19.0	台東区立朝倉彫塑館	
					* 原題不明		
2階展示室	中村研一	仔猫	1951年頃	油彩・板	33.5 × 24.0cm		
		婦人像	1963年	油彩・カンヴァス	100.5 × 81.0cm		
		婦人像	制作年不詳	油彩・カンヴァス	60.6 × 50.0cm		
		猫	制作年不詳	インク・紙	31.0 × 24.0cm		
		猫	制作年不詳	インク・紙	26.0 × 38.0cm		
		猫	制作年不詳	墨・紙	35.0 × 22.0cm		
		猫	制作年不詳	墨・紙	19.0 × 21.0cm		
		ネコ	制作年不詳	インク・紙	19.0 × 22.0cm		
		猫	制作年不詳	墨・紙	34.0 × 25.0cm		
		富子猫	制作年不詳	水彩・紙	23.0 × 23.0cm		
		ネコ	制作年不詳	インク・紙	15.0 × 20.0cm		
		静物 (ネコ)	制作年不詳	墨・紙	30.5 × 30.0cm		
		猫	制作年不詳	墨、鉛筆・紙	29.8 × 41.0cm		
		猫	制作年不詳	鉛筆・紙	35.8 × 27.3cm		
		猫/ねずみ	制作年不詳	鉛筆・紙	35.8 × 27.2cm		
		魚 (あかな)	1946年	水彩・紙	22.0 × 25.0cm		
		鳥	制作年不詳	インク・紙	30.0 × 22.0cm		
		つる草	制作年不詳	水彩・紙	34.0 × 22.0cm		
		樹	制作年不詳	墨・紙	33.0 × 24.0cm		
		朝顔	制作年不詳	鉛筆、水彩・紙	35.0 × 27.0cm		
		ペランダ	制作年不詳	墨、水彩・紙	43.0 × 33.0cm		
		鳥二態	制作年不詳	墨・紙	19.0 × 25.0cm		
		林	制作年不詳	オイルパステル・紙	26.0 × 35.0cm		
		出雲取手付猫面壺	1950-59年	陶器	19.3 × 20.6 × 16.0cm		
		出雲取手付手壺	1954年	陶器	21.8 × 19.7 × 13.4cm		
		藤田嗣治	研一猫	制作年不詳	水彩・紙	30.0 × 20.0cm	
			白い猫	1929年	木版・紙	31.0 × 43.5cm	

## 2. 教育普及事業

---

### 1. ワークショップ

#### [1] はけのワークショップ市

内 容：毎月第一日曜日に小金井市内で開催している「はけのおいしい朝市」のメンバーを講師に、はけの森美術館にてワークショップの「市場」をひらいた。美術館展示室および中庭にいくつかのブースを設置し、参加者はそれぞれワークショップを選び、楽しむことが出来た。要する時間や難易度は可能な限り幅広く設定し、作ったものをすぐに展示していき、見学のみでも楽しめるようにし、大勢の参加者が様々なワークショップを楽しんだ。

日 時：平成 23 年 11 月 6 日（日） 12：00～16：00

会 場：1 階展示室

参加費：無料

対 象：年齢制限なし（小学 4 年生以下は保護者同伴）

講 師：「はけのおいしい朝市」組合員

《はけの森ことりストラップをつくろう》 achipan design（江坂千鶴）

《被災地の幼稚園に送る旗飾作り》 でんでんむしプロジェクト（横須賀雪枝 他）

《マイカレンダー 2012 をつくろう》 achipan design（一瀬圭介）×中村文具店（中村研一）

《日光写真で影を撮ろう》 やまさき薫

《ハニカムペーパーフラワーづくり》 サルビア工房（上原かなえ）

担 当：神津瑛子

参加者：計 226 人



## 2. 学校教育との連携

### [1] 鑑賞教室

当館では芸術と触れ合うことの楽しさを学び、地域の美術館として親しんでもらうため、平成20年度より市内小学校図工授業の一環として、鑑賞教室を実施している。毎年市内小学4年生が美術館を訪問し、各種展覧会を学芸員の解説を聞きながら鑑賞を行う。

学校名	実施日	時間	組	生徒数	引率教員数	交通手段	展覧会	
本町小学校	6月15日(水)	9:10~10:10	1	36	2	バス	江戸糸あやつり人形結城座 ~糸し糸しと言ふ心~	
		10:50~11:50	2	34	3			
緑小学校	6月16日(木)	9:30~10:20	1	37	5	バス		
		10:20~11:10	2	39				
		11:15~12:05	3	38				
東小学校	6月28日(火)	9:10~10:00	1	30	2	徒歩		
		10:55~11:50	2	32	3			
南小学校	9月2日(金)	9:00~10:10	1	28	2	徒歩		朝倉文夫の猫たち
		11:05~12:00	2	29	3			
		14:00~14:55	3	30	2			
第四小学校	9月6日(火)	9:30~10:20	1	28	2	バス		
		10:20~11:10	2	28	2			
		11:10~12:00	3	27	2			
第三小学校	9月7日(水)	9:30~10:15	1	32	2	バス		
		10:15~11:00	2	31	2			
		11:00~11:45	3	34	2			
		13:05~13:50	4	33	3			
第一小学校	9月9日(金)	9:40~10:25	1	33	3	徒歩		
		10:45~11:30	2	33	3			
		13:15~14:00	3	33	4			
前原小学校	9月13日(火)	9:10~9:50	1	28	1	徒歩		
		10:50~11:30	3	28	1			
		14:00~14:45	2	29	1			
第二小学校	9月14日(水)	9:00~10:00	1	33	3	バス		
		10:55~11:55	2	32	3			
			合計	25	795			

### [2] 職場体験学習

当館では平成20年度から、市立中学校の「職場体験学習」の受け入れを続けている。職場体験学習は「総合的な学習の時間」の一環として生徒自身が希望する職場で勤労体験を行うもので、働くことの意義や充実感を体で感じとらせ、職業理解をより深めることを目的としている。

日 時：①平成24年2月1日(水) 2日(木) 3日(金) 各日9:00~16:00

②平成24年2月8日(水) 9日(木) 10日(金) 各日9:00~16:00

対 象：①市立小金井第一中学校 2年生 5人(男子2人、女子3人)

②市立南中学校 2年生 5人(女子)

内 容：美術館パンフレット作成体験、作品の取扱い(絵画・陶器)、ミュージアムトーク等



### 3. 平成 24 (2012) 年度

#### 1. 展覧会

##### 所蔵作品展



夏の家、木陰のアトリエ

会 期 平成 24 年 7 月 18 日 (水) ~ 9 月 2 日 (日)

会 場 1 階・2 階展示室

開催日数 41 日

観 覧 料 一般 200 円、中学生以下無料

※未就学児、障害手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料

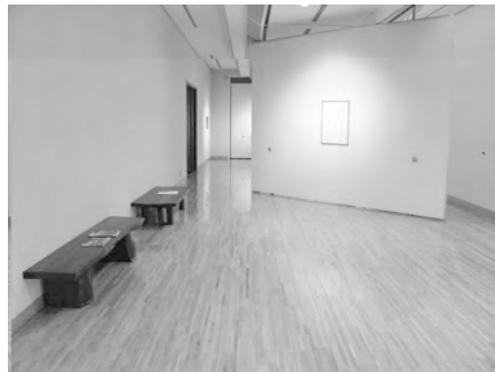
入場者数 567 人

一日平均 13 人

出品点数 44 点 (1 階 20 点, 2 階 24 点)

担 当 者 神津瑛子

協 力 東京学芸大学デザイン研究室



**開 催 趣 旨** | 中村研一の絵は夏に描かれたと思われるものが多く、強烈に照りつける光に満ちた画面は観る者の五感を刺激する。本展覧会では、夏をテーマにした作品、庭（現・美術の森緑地）を描いた作品を中心に、中村の描く「夏」を様々な切り口で展観した。作品と対話するような鑑賞を目指し、中村研一の生い立ちや画業の紹介のほか、展示室内の解説パネルや配置により五感を通じて「夏」を楽しむ工夫を行った。特に小中学生に向けて、豊かな鑑賞を促すためワークシートを無料配布した。

**関 連 事 業** | (1) じっくり眺めてスケッチ曜日  
内 容：当館では平成 18 年度から所蔵作品展関連企画として、展示作品の模写を行っている。本展では、毎週火曜日をスケッチ曜日と定め、作品の模写が出来る様に参加者へ画材やイーゼルの貸出を行った。  
日 時：平成 24 年 7 月 24 日 (火)、31 日 (火)、8 月 7 日 (火)、14 日 (火)、21 日 (火)、28 日 (火) 10:00 ~ 16:00 全 6 回実施  
参加費：無料 (要観覧券)  
会 場：1 階展示室  
定 員：各日先着 5 名まで  
参加者：計 5 人

(2) ワークショップ「“けんぼしゃん”とあそぼう！スペシャル」

①布・紙・糸でコラージュ

内 容：“けんぼしゃん”とは中村研一の幼少期のあだ名であり、子どもの頃から絵を描くことが好きだった中村にちなみ、創作ワークショップの名称としている。布や紙、糸などを自由にコラージュし、はがきサイズの小さな作品を創作した。

日 時：平成 24 年 8 月 25 日（土） 10:30～12:00

講 師：MK Works(刺繍家)

参加費：無料（要観覧券）

対 象：小学生以上（幼児は親子で参加可、小学 4 年生以下は保護者同伴）

会 場：2 階ラウンジ

参加者：15 人



②チクチク刺繍でお絵かき

内 容：中村研一の素描をモチーフにしたオリジナルの刺繍作品を創作した。

日 時：平成 24 年 8 月 25 日（土） 13:30～16:00

講 師：MK Works(刺繍家)

参加費：無料（要観覧券）

対 象：中学生以上

会 場：2 階ラウンジ

参加者：13 人



主要関連記事

(1) 雑誌

「小金井市立はげの森美術館所蔵作品展『夏の家、木陰のアトリエ』」『ほうじんむさしの』  
No. 402、2012 年 7 月 5 日

「所蔵作品展 夏の家、木陰のアトリエ」『多摩ら・び』No. 75、2012 年 8 月

[作品リスト]

夏の家、木陰のアトリエ 会期 平成 24 年 7 月 18 日 (水) ~ 9 月 2 日 (日)

	作者	題名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	
1 階展示室	中村研一	バラ (絶筆)	1967 年	油彩・カンヴァス	40.9 × 31.8cm	
		夏庭	1963 年	油彩・カンヴァス	80.5 × 65.3cm	
		海水浴	制作年不詳	油彩・カンヴァス	31.8 × 40.9cm	
		田園	1945 年	油彩・カンヴァス	38.0 × 45.5cm	
		水田	制作年不詳	墨・紙	22.0 × 30.0cm	
		ベランダ	制作年不詳	墨、水彩・紙	43.5 × 35.5cm	
		ベランダ	制作年不詳	墨、水彩・紙	43.0 × 33.0cm	
		初夏	1957 年頃	油彩・カンヴァス	45.5 × 53.0cm	
		婦人像	1948 年	油彩・カンヴァス	45.5 × 53.0cm	
		婦人像	1950 年	油彩・カンヴァス	80.3 × 65.2cm	
		夏	1948 年	油彩・カンヴァス	91.0 × 73.0cm	
		夏の家	1964 年	油彩・カンヴァス	116.5 × 91.0cm	
		木陰	1963 年頃	油彩・カンヴァス	91.0 × 116.5cm	
		座裸婦	1965 年	油彩・カンヴァス	130.5 × 97.0cm	
		車窓風景 I	制作年不詳	インク・紙	25.5 × 18.0cm	
		車窓風景 II	制作年不詳	インク・紙	25.5 × 18.0cm	
		車窓風景 III	制作年不詳	インク・紙	25.5 × 18.0cm	
	多田正美	# 20061029- A	2006 年	レーザープリント	120.0 × 180.0cm	
		# 20061029- B	2006 年	レーザープリント	120.0 × 180.0cm	
		# 20061029- C	2006 年	レーザープリント	120.0 × 180.0cm	
2 階展示室	中村研一	静物	制作年不詳	墨・紙	31.5 × 40.7cm	
		静物	制作年不詳	墨・紙	31.3 × 27.5cm	
		富子猫	制作年不詳	水彩・紙	23.0 × 23.0cm	
		縫物	1945 年	油彩・カンヴァス	45.5 × 35.9cm	
		自画像	制作年不詳	墨、オイルパステル・紙	33.0 × 24.0cm	
		くり	制作年不詳	オイルパステル・紙	24.0 × 25.5cm	
		林	制作年不詳	オイルパステル・紙	26.0 × 35.0cm	
		風景	1922 年	油彩・板	53.0 × 65.0cm	
		フランス婦人像	1928 年	油彩・カンヴァス	60.5 × 50.0cm	
		フランス風景	1923 年	油彩・カンヴァス	60.5 × 50.0cm	
		人物	1924 年	リトグラフ、エッチング・紙	18.0 × 13.0cm	
		パリ・カフェ	制作年不詳	インク、墨・紙	19.0 × 22.0cm	
		食卓	制作年不詳	インク・紙	26.0 × 35.0cm	
		自画像	1958 年	油彩・カンヴァス	73.0 × 61.0cm	
		出雲 カップ	1950 年頃以降	陶器		
		出雲 薔薇図カップ	1950 年頃以降	陶器		
		出雲 取手付猫面壺	1950-59 年	陶器		
		藤田嗣治	研一猫	制作年不詳	水彩・紙	30.0 × 20.0cm
		モーリス・アスラン	裸婦	1927 年	インク、水彩・紙	32.0 × 24.0cm
		黒田清輝	虎ノ門風景	制作年不詳	油彩・板	10.0 × 14.0cm
	岡田三郎助	風景	制作年不詳	油彩・カンヴァス	13.0 × 12.0cm	
	石井伯亨	朝の雲	1955 年	油彩・板	15.0 × 21.0cm	
	辻永	蓼科 (風景)	1938 年	油彩・板	24.3 × 33.4cm	
	中村琢二	江ノ浦	1974 年頃	油彩・カンヴァス	36.0 × 45.0cm	

# KENICHI NAKAMOURA



中村研一 描線の妙味

会 期 平成 25 年 3 月 30 日 (土) ~ 5 月 26 日 (日)

会 場 1 階・2 階展示室

開催日数 56 日

観 覧 料 一般 200 円、小中学生 100 円

※未就学児、障害手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料

※ 5 月 12 日 (日) は無料観覧日(5 月 14 日の中村研一誕生日を記念して)

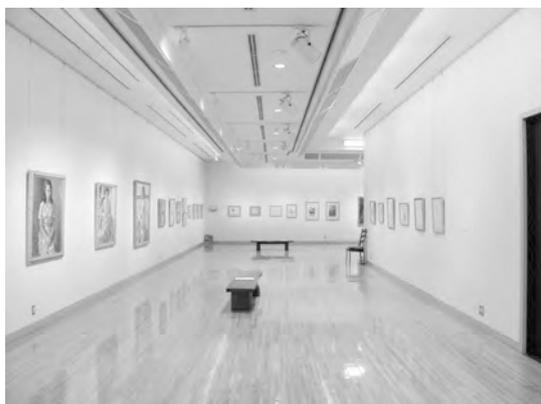
入場者数 1,460 人

一日平均 26 人

出品点数 68 点 (1 階 41 点, 2 階 27 点)

担 当 者 荒木 和

協 力 東京学芸大学デザイン研究室



## 開 催 趣 旨

絵を描く、つまり三次元の対象を二次元の画面に再現しようとするとき、対象と周囲の空間の境界を示す「線」が現れる。中村研一は、画家の目と対象の位置関係がわずかでも動くことで対象の周りに無数の線が存在し、その中からただ一つの「ほんとうの線」を選び取ることの重要性和難しさについて、対談や著作の中でしばしば述べてきた。中村の描く線は、そうした意識と同時に、学生時代より高く評価されてきた描写力を示している。油彩作品においては濃色の輪郭線が対象の存在感を増す役割を果たし、モデルや身の回りの物を描いたスケッチや書籍・新聞雑誌のためのペン画では、簡潔な線で形態を的確に捉えるばかりでなく強弱や筆勢によって量感や動きも表現する。本展覧会では、中村が技法や対象によって様々に描き出した線の魅力を所蔵作品によって紹介した。2 階展示室では「春」にちなんだモチーフによる作品を特集した。

関 連 事 業

(1) ワークショップ「“けんぼしゃん”とあそぼう！～コラージュでアートを楽しむ～」

内 容：コラージュで表現する恒例ワークショップ。今回は、色々な紙やテープを切り貼りして、自分だけのブックカバーを制作した。

日 時：平成 25 年 5 月 6 日 (月・振休)13:30～15:00

参加費：無料 (要観覧券)

対 象：どなたでも (小学 4 年生以下は保護者同伴)

会 場：2 階ラウンジ

参加者：16 人



(2) 学芸員によるギャラリートーク

日 時：①平成 25 年 4 月 13 日 (土)14:00～14:30

②平成 25 年 5 月 19 日 (日)14:00～14:30

参加費：無料 (要観覧券)・事前申込不要

参加者：計 12 人

主要関連記事

(1) 新聞

「展覧会 中村研一 描線の妙味」朝日新聞 (武蔵野版)、2013 年 5 月 15 日

「中村研一『描線の妙味』」小金井新聞、2013 年 4 月 21 日

(2) 放送

「いまだこイレブン」ケーブルテレビ J:COM 東京、2013 年 4 月 17 日放送

[作品リスト]

中村研一 描線の妙味 会期 平成25年3月30日(土)～5月26日(日)

	作者	題名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
1階展示室	中村研一	風景	1922年	油彩・板	53.0 × 65.0cm
		フランス婦人像	1928年	油彩・カンヴァス	60.5 × 50.0cm
		婦人像	1945年	油彩・カンヴァス	100.0 × 80.3cm
		裸婦	1952年	油彩・カンヴァス	100.0 × 80.3cm
		裸婦	1961年	油彩・カンヴァス	53.0 × 40.9cm
		座裸婦	1965年	油彩・カンヴァス	130.5 × 97.0cm
		婦人像	1959年	油彩・カンヴァス	116.5 × 91.0cm
		静物	1947・1950年	油彩・カンヴァス	31.8 × 41.0cm
		早春	1962年	油彩・カンヴァス	91.0 × 73.0cm
		静物	1959年	油彩・カンヴァス	53.0 × 45.5cm
		軍艦	1936年頃	鉛筆・水彩・紙	23.2 × 28.7cm
		基地	1941年頃	水彩・鉛筆・紙	27.2 × 36.7cm
		風景		鉛筆・水彩・紙	27.5 × 36.4cm
		南方婦人像		墨・水彩・紙	35.0 × 27.3cm
		南方風俗		鉛筆・水彩・紙	37.8 × 27.0cm
		兵士	1941年頃	鉛筆・紙	36.7 × 26.5cm
		兵士	1941年頃	鉛筆・紙	26.5 × 36.7cm
		裸婦		コンテ・紙	43.0 × 32.0cm
		小憩		鉛筆・紙	25.0 × 35.0cm
		少憩		墨・紙	25.0 × 35.0cm
		裸婦		鉛筆・紙	24.0 × 34.0cm
		裸婦		墨・鉛筆・紙	43.0 × 31.0cm
		裸体		インク・紙	34.5 × 24.5cm
		休憩		鉛筆・紙	33.0 × 21.0cm
		富子像		墨・紙	32.0 × 22.0cm
		猫		墨・鉛筆・紙	29.8 × 41.0cm
		人物		墨・紙	18.0 × 21.5cm
		平戸教会		鉛筆・水彩・紙	35.0 × 27.0cm
		四阪島(新居浜)		鉛筆・紙	25.0 × 35.0cm
		バラ		墨・水彩・紙	52.0 × 36.0cm
		庭(梅・茶・畑)		墨・水彩・紙	49.0 × 32.0cm
		博多「玉せせり」	1955年	インク・紙	19.5 × 20.5cm
		抗夫		墨・紙	36.0 × 26.0cm
		兵士		墨・紙	18.0 × 24.0cm
		華僑の娘	1942年	インク・紙	31.0 × 24.3cm
		読書		墨・紙	32.0 × 24.0cm
		母子		墨・紙	21.0 × 18.0cm
		画室		墨・紙	36.0 × 28.0cm
		食卓		インク・紙	26.0 × 35.0cm
		婦人像		墨・紙	35.0 × 25.0cm
		婦人像		インク・墨・紙	34.0 × 24.0cm
2階展示室	中村研一	新緑(須磨)		油彩・カンヴァス	45.5 × 53.0cm
		新緑	1963年	油彩・カンヴァス	45.5 × 53.0cm
		田園	1945年	油彩・カンヴァス	38.0 × 45.5cm
		花(アヤメ)		油彩・カンヴァス	45.5 × 38.0cm
		花	1960年	油彩・カンヴァス	91.0 × 72.8cm
		午睡		油彩・カンヴァス	18.2 × 27.3cm
		仔猫	1951年?	油彩・板	33.5 × 24.0cm
		婦人像		油彩・カンヴァス	91.0 × 73.0cm
		樹		水彩・紙	26.0 × 38.0cm
		ゆり	1946年	インク・水彩・紙	60.0 × 45.0cm
		花籠		インク・紙	31.0 × 30.0cm
		あやめ		墨・インク・紙	28.0 × 34.0cm
		チューリップ		墨・水彩・紙	52.0 × 36.0cm
		パンジー	1946年	インク・水彩・紙	33.0 × 34.0cm
		菊		鉛筆・水彩・紙	19.0 × 26.0cm
		静物		インク・水彩・紙	51.0 × 39.0cm
		アネモネⅠ		墨・鉛筆・紙	8.7 × 23.0cm
		アネモネⅡ		墨・鉛筆・紙	9.0 × 29.8cm
		出雲深皿 藤図	1954年	陶器	径 34.5cm
		瀬戸飾皿 カラー図	1950年以降	陶器	径 28.5cm
		瀬戸絵付デミタス すみれ図	1950年以降	陶器	口径 6.5 径 11.0cm
		瀬戸黒半筒形	1950年以降	陶器	口径 12.5 × 7.0 × 8.7cm
		九谷半筒形 うつぎ図	1950年以降	陶器	口径 12.6 × 底径 7.1 × 高さ 10.1cm
九谷丸皿 薔薇図	1950年以降	陶器	径 27.7cm		
信楽花生	1950年以降	陶器	高さ 20.8・径 10.5cm		
備前花生	1950～1962年	陶器	高さ 23.7・径 10.5cm		
出雲大皿 羊歯図	1950年以降	陶器	高さ 8.0 × 径 44.5 × 底径 26.0cm		

## 企画展



### 交歓と触発 ～石川県立美術館の近代洋画から～

会 期 平成 24 年 10 月 16 日 (火) ～ 12 月 2 日 (日)  
 会 場 1 階展示室 (2 階「中村研一の九谷」同時開催)  
 開催日数 43 日  
 観 覧 料 一般 500 円、小中学生 200 円  
 ※未就学児、障害手帳をご提示の方は無料  
 入場者数 1,854 人  
 一日平均 43 人  
 出品点数 30 点 (2 階 34 点)  
 担 当 者 荒木和  
 企画協力 石川県立美術館  
 協 力 東京学芸大学デザイン研究室



### 開 催 趣 旨

地方の美術館の優れたコレクションを紹介する展示の第 5 弾として、石川県立美術館が所蔵する近代洋画作品から、当館の中心的な所蔵作家である中村研一とその多様な交友関係を取り上げた。中村は、若い頃から親族や友人を介して石川県出身の政財界人、文化人らの知遇を得ており、肖像画を描くこともあった。また 1950 年代に入る頃から晩年近くまで、頻りに北陸地方を訪れている。金沢には戦前より中村から指導を受けていた高光一也 (1907—1986) がおり、彼をはじめとする地元の画家たちとの交流や、初代徳田八十吉の窯で九谷焼の絵付を学び制作を行っていたことが知られている。本展覧会では、石川県立美術館が所蔵する中村研一作品の全てと、同時代に活躍した洋画家たちの作品計 30 点を展示し、一人の画家とある地域の関わりを糸口とした昭和洋画史の一断面を紹介した。2 階展示室では、「中村研一の九谷」展を同時開催し、石川県立美術館と当館が所蔵する九谷焼作品を下図素描や関連資料とともに展示した。

関 連 事 業

(1) 連続ワークショップ「九谷シールで自分のうつわをつくる・つかう」

内 容：休館中に九谷焼の創作ワークショップ、開館後に開催中企画展「中村研一の九谷」と連動した鑑賞ワークショップを二部構成で開催。第一部「つくる編」では陶土の特質や九谷焼の転写の技術について学びながら九谷シールを使ってオリジナルの器をデザインした。約一ヶ月後の第二部「つかう編」では、焼き上がった器を実際に使ってみると併せ、「中村研一の九谷」を講師によるレクチャー付きで鑑賞した。

日 時：①つくる編：平成 24 年 9 月 17 日（月・祝）14：00～16：00

②つかう編：平成 24 年 10 月 21 日（日）14：00～16：00

講 師：岡田ちひろ（陶磁器デザイナー）、吉田守孝（プロダクトデザイナー）

参加費：500 円

対 象：年齢制限なし（但し小学 4 年生以下では保護者同伴）

会 場：美術館 2 階会議室

参加者：31 人（21 組、保護者 8 人、見学 2 人）



(2) 講演会「金沢ゆかりの洋画家達」

内 容：本展覧会出品作家を中心に、金沢および周辺地域出身の洋画家と、しばしば金沢を訪れた洋画家たちの交友について講演を行った。

日 時：平成 24 年 10 月 28 日（日）13：30-15：00

講 師：二木伸一郎（石川県立美術館普及課長）

会 場：2 階ラウンジ

参加費：無料（要観覧券）

参加者：8 人

(3) 学芸員によるギャラリートーク

日 時：① 10 月 20 日（土）14：00-14：30

② 11 月 11 日（日）14：00-14：30

参加費：無料（要観覧券）・事前申込不要

参加者：計 13 人

主要関連記事

(1) 雑誌

「交歓と触発—石川県立美術館の近代洋画から— 九谷」『ほうじんむさしの』No. 405、2012 年 11 月 5 日

[作品リスト]

交歓と触発 ～石川県立美術館の近代洋画から～ 会期 平成24年10月16日(火)～12月2日(日)

作者	題名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵	
1階展示室	中村研一	H夫人の像	1928年	油彩・カンヴァス	89.8 × 71.5	石川県立美術館
	中村研一	安宅弥吉像	1941年	油彩・カンヴァス	78.5 × 63.5	石川県立美術館
	中村研一	婦人像	1949年	油彩・カンヴァス	100 × 80.6	石川県立美術館
	中村研一	裸体	1950年	油彩・カンヴァス	79.3 × 98.9	石川県立美術館
	中村研一	朝	1958年	油彩・カンヴァス	99 × 79.3	石川県立美術館
	中村研一	びわ	1959年	油彩・カンヴァス	73 × 90.5	石川県立美術館
	中村研一	裸体	1960年頃	油彩・カンヴァス	115.4 × 90	石川県立美術館
	中村研一	家居	1961年	油彩・カンヴァス	98.8 × 79	石川県立美術館
	中村研一	爪	1961年	油彩・カンヴァス	116.4 × 91.2	石川県立美術館
	中村研一	夏庭	1963年	油彩・カンヴァス	99.6 × 80.7	石川県立美術館
	中村研一	裸体	1967年	油彩・カンヴァス	89.9 × 115.7	石川県立美術館
	小糸源太郎	春蘭	1962年	油彩・カンヴァス	59 × 71	石川県立美術館
	碓伊之助	荒川上流	1937年	油彩・カンヴァス	60.5 × 72.5	石川県立美術館
	碓伊之助	麦秋	1960年	油彩・カンヴァス	63.5 × 89.3	石川県立美術館
	碓伊之助	アルパニアの花嫁	1965年	油彩・カンヴァス	98.5 × 78.8	石川県立美術館
	清水謙徳	パラダイス	1939年	油彩・カンヴァス	188.8 × 203.8	石川県立美術館
	清水謙徳	妙義山	1948年	油彩・カンヴァス	129.4 × 161	石川県立美術館
	宮本三郎	赤いクッション	1935年	油彩・カンヴァス	79.2 × 129.5	石川県立美術館
	宮本三郎	かれい	1958年	油彩・カンヴァス	59 × 71.5	石川県立美術館
	宮本三郎	花	1960年	油彩・カンヴァス	44 × 59.2	石川県立美術館
	宮本三郎	女優像	1960年	パステル・紙	49.1 × 29.5	石川県立美術館
	宮本三郎	熱帯夢	1971年	油彩・カンヴァス	128.5 × 160.5	石川県立美術館
	高光一也	兎の静物	1932年	油彩・カンヴァス	73.4 × 90.8	石川県立美術館
	高光一也	鏡の前の裸婦	1951年	油彩・カンヴァス	115.8 × 89.6	石川県立美術館
	高光一也	娘の像	1956年	油彩・カンヴァス	115.3 × 89.6	石川県立美術館
	高光一也	フードの女I	1972年	油彩・カンヴァス	145.5 × 112.2	石川県立美術館
	南政善	アコーディオン	1935年	油彩・カンヴァス	190.2 × 128.2	石川県立美術館
南政善	楽園	1942年	水彩・紙	15.3 × 29.6	石川県立美術館	
南政善	黒いタイツ	1951年	油彩・カンヴァス	115.3 × 89.3	石川県立美術館	
南政善	蘇州	1960年	油彩・カンヴァス	51.8 × 44.2	石川県立美術館	
2階展示室	中村研一	菖蒲図丸皿	1949年		口径 21.7 × 底径 15.0 × 高 2.5	
		菊図丸皿	1953年		口径 28.0 × 底径 17.2 × 高 3.3	
		浜なし図丸皿			口径 24.7 × 底径 15.0 × 高 3.0	
		菊花図皿	1953年		口径 45.4 × 底径 25.4 × 高 8.6	石川県立美術館
		赤のまんま図皿	1954年		口径 44.6 × 底径 24.5 × 高 8.3	石川県立美術館
		カーネーション図皿	1954年		口径 44.9 × 底径 24.7 × 高 8.9	石川県立美術館
		自画像皿	1954年		口径 45.2 × 底径 24.4 × 高 9.4	石川県立美術館
		山吹図皿	1954年		口径 44.8 × 底径 24.3 × 高 8.3	石川県立美術館
		尾長鳥図皿	1955年		口径 46.0 × 底径 16.0 × 高 6.9	石川県立美術館
		羊歯図皿	1955年		口径 46.2 × 底径 26.8 × 高 5.6	石川県立美術館
		立田川図皿	1955年		口径 45.9 × 底径 26.3 × 高 5.9	石川県立美術館
		八重樫図皿	1955年		口径 45.9 × 底径 25.0 × 高 7.8	石川県立美術館
		紅梅図皿	1956年		口径 45.8 × 底径 25.0 × 高 7.4	石川県立美術館
		菖蒲図皿	1956年		口径 44.3 × 底径 24.0 × 高 8.0	石川県立美術館
		錦木図皿	1956年		口径 45.9 × 底径 25.6 × 高 6.7	石川県立美術館
		枇杷図皿	1956年		口径 45.6 × 底径 26.6 × 高 5.4	石川県立美術館
		牡丹図大皿			口径 37.8 × 底径 19.6 × 高 5.1	
		深鉢	1958年		口径 29.0 × 底径 12.5 × 高 12.3	
		九谷絵茶碗 藤ノ絵			口径 13.5 × 底径 5.5 × 高 8.7	
		うつぎ図半筒形			口径 12.6 × 底径 7.1 × 高 10.1	
		水指 銘 七夕			17.5 × 16.3 × 高 16.5	
		梅図香合			口径 6.5 × 底径 2.5 × 高 2.8	
		九谷小皿			(旦那様用)10.0 × 14.8 × 高 2.8 (奥様用)9.5 × 14.2 × 高 2.9	
		栗図飾皿			口径 20.4 × 底径 10.5 × 高 2.7	
		九谷焼大皿下図(カーネーション)	1954年頃	コンテ、水彩・紙	56.0 × 45.0	
		九谷焼大皿下図(山吹)		鉛筆、水彩・紙	47.0 × 60.0	
		とり		インク・紙	31.0 × 30.0	
		九谷焼大皿下図(立田川)	1955年頃	墨、水彩、 クレヨン・紙	63.7 × 47.9	
		九谷焼大皿下図(八重樫)	1955年頃	墨、水彩・紙	59.0 × 48.0	
		九谷焼大皿下図(菖蒲)(錦木)	1956年頃	墨、水彩・紙	49.0 × 49.0	
		徳田八十吉翁(九谷焼下図)	1956年	墨、水彩・紙	51.0 × 46.0	
		うつぎ九谷半筒形 茶碗下図		墨、水彩・紙	29.0 × 30.0	
	茶碗図案(タケノコ)		鉛筆、水彩・紙	23.0 × 29.0		
	茶碗図案		鉛筆、水彩・紙	27.0 × 33.0		

## 2. 教育普及事業

### 1. 学校教育との連携

#### [1] 鑑賞教室

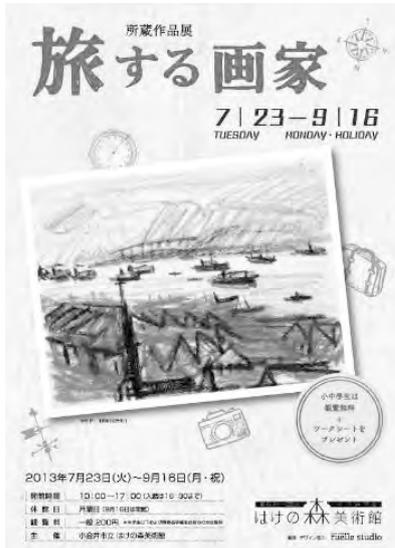
学校名	実施日	時間	組	生徒数	引率教員数	交通手段	展覧会
南小学校	10月19日(金)	9:35~10:20	1	30	2	徒歩	交歓と触発~石川県立美術館の近代洋画から~
		10:45~11:00	2	29	3		
		14:00~14:45	3	30	3		
緑小学校	10月25日(木)	9:10~	1	39	2	バス	
			2	41	2		
		~12:10	3	40	2		
第二小学校	10月30日(火)	9:10~	1	28	2	バス	
		9:50~	2	27	3		
		10:50~	3	28	2		
第一小学校	11月2日(金)	9:40~10:25	1	37	3	徒歩	
		10:45~11:30	2	38	3		
		13:15~14:00	3	36	3		
東小学校	11月12日(月)	9:00~9:40	1	32	3	バス	
		10:30~10:50	2	30	2		
		11:20~12:00	3	31	2		
第三小学校	11月21日(水)	8:50~	3	38	2	バス	
		9:40~	2	39	2		
		10:40~	1	39	2		
前原小学校	11月27日(火)	9:05~10:00	1	31	2	徒歩	
		11:00~11:55	2	31	2		
		13:55~14:50	3	30	2		
第四小学校	11月29日(木)	9:30~10:20	1	32	2	バス	
		10:20~11:00	2	32	2		
		11:20~12:00	3	31	3		
本町小学校	11月30日(金)	9:10~10:00	1	31	2	バス	
		10:55~11:45	2	33	2		
		合計	26	863			



## 4. 平成 25 (2013) 年度

### 1. 展覧会

#### 所蔵作品展



#### 旅する画家

会 期 平成 25 年 7 月 23 日 (火) ~ 9 月 16 日 (月・祝)

会 場 1 階・2 階展示室

開催日数 49 日

観 覧 料 一般 200 円、中学生以下無料

※未就学児、障害手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料

入場者数 1,039 人

一日平均 21 人

出品点数 75 点 (1 階 36 点, 2 階 39 点)

担 当 者 荒木和

編集・デザイン協力 リュエル・スタジオ



#### 開 催 趣 旨

日常の場を離れて他所の土地を訪れる「旅」という行為は、観光・レジャーばかりでなく仕事や勉強、友人や親戚を訪ねるなどの目的がある場合でも、私たちの心にある種の緊張や高揚を引き起こす。実際に旅に出なくとも、過去の旅で得た物や旅した人からの土産物、そして未知の世界を表現した芸術作品が、空想の旅に思いを巡らせるトリガー(きっかけ)となることがある。

本展覧会は、旅先でのスケッチや旅行後に描いた油彩画をはじめとして、目新しい景色を見た印象や離れた地に馳せる思いなど、画家の“旅心”が垣間見える作品を特集した。2 階展示室では、「中村研一の窯紀行」をテーマに、洋画家・中村研一が戦後に全国各地の窯を訪れて制作した陶芸作品を紹介した。

#### 関 連 事 業

##### (1) 鑑賞ワークシート

内 容：小中学校の夏季休暇期間に開催する展覧会として、当館に足を運ぶきっかけになるよう小中学生の観覧料を無料とし、学習の助けになるワークシートを配布した。

(2) 美術館で模写・スケッチ曜日

内 容：当館恒例の模写を行うプログラムとして、本展覧会開催期間の8月毎週火曜日をスケッチ曜日と定め、来館者の美術活動の支援を行った。

日 時：平成25年8月6日(火)、13日(火)、20日(火)、27日(火)  
全4回実施 10:00～16:00

参加費：無料(要観覧券)

会 場：1階展示室

定 員：各日先着5名まで

参加者：計5人

(3) ワークショップ

①『あかり』で旅する美術館

内 容：美術作品や展示空間の印象に大きく影響する展示照明の概要と効果を知り物の見え方と感じ方の関係を考えるため、レクチャーだけでなく実際に照明機器操作の体験を行った。

日 時：平成25年8月10日(土) 15:30～17:30

講 師：青木繁佳(ライティングエンジニア)

参加費：無料(要観覧券)

対 象：小学5年生以上

会 場：2階多目的講義室、1階展示室

参加者：6人



②“けんぼしゃん”とあそぼう！～コラージュでつくる夢の旅～

内 容：会期が終了した展覧会ポスター、チラシなどを自由に切り貼りして工作する恒例ワークショップ。展示に合わせて「旅」をテーマとし、旅行したい場所などをイメージして、紙の上にコラージュや描画で表現した。

日 時：平成 25 年 8 月 24 日（土） 13:30～15:00

参加費：無料（要観覧券）

対 象：どなたでも（小学 4 年生以下は保護者同伴）

会 場：2 階多目的講義室

参加者：4 人



主要関連記事

(1) 新聞

「『旅する画家』展 23 日からはげの森美術館」小金井新聞、2013 年 7 月 21 日

「『旅する画家』展」しんぶん赤旗、2013 年 8 月 21 日

「中村研一の旅先風景画展示」産経新聞、2013 年 9 月 2 日

(2) 放送

「いまだこイレブン」ケーブルテレビ J:COM 東京、2013 年 7 月 31 日放送

[作品リスト]

所蔵作品展 旅する画家 会期 平成 25 年 7 月 23 日（火）～9 月 16 日（月・祝）

	作者	題名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
1 階展示室	中村研一	足柄より（戦艦）	1937 年	油彩・カンヴァス	45.5 × 53.0cm
		コタバルにて	1942 年	油彩・カンヴァス	53.0 × 41.0cm
		宿泊先（昭南のわが宿）	1942 年	油彩・カンヴァス	45.0 × 53.0cm
		南の海	1942 年	油彩・カンヴァス	54.0 × 46.0cm
		台北風景	1962 年	油彩・カンヴァス	45.5 × 53.0cm
		北京		油彩・板	22.0 × 27.3cm
		桜島	1962 年	油彩・カンヴァス	50.0 × 60.5cm
		沖ノ島（海突堤）		油彩・カンヴァス	45.5 × 53.0cm

	作者	題名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)		
1階展示室	中村研一	船	1961年	油彩・カンヴァス	38.0 × 45.8cm		
		戸隠	1952年	油彩・カンヴァス	38.0 × 45.5cm		
		箱根	1955年	油彩・カンヴァス	45.5 × 53.0cm		
		海水浴		油彩・カンヴァス	40.9 × 31.8cm		
		夏	1950年	油彩・カンヴァス	116.7 × 90.9cm		
		カイロを想う	1985年	油彩・カンヴァス	162.0 × 130.5cm		
		蓼科	1938年	油彩・板	24.3 × 33.4cm		
		小豆島にて	1936年	油彩・板	21.5 × 26.5cm		
		パリ・カフェ		墨・紙	19.0 × 22.0cm		
		戴冠式	1937年?	墨・紙	18.0 × 26.0cm		
		戴冠式	1937年?	墨・紙	25.0 × 33.0cm		
		サイゴン		鉛筆・水彩・紙	35.0 × 24.0cm		
		マレーシア風俗		墨・水彩・紙	28.7 × 39.4cm		
		蒋介石肖像	1965年	墨・紙	37.0 × 28.0cm		
		長崎 (佐世保)		オイルパステル・紙	21.0 × 28.0cm		
		平戸島		鉛筆・紙	29.0 × 36.0cm		
		瀬戸内		鉛筆・水彩・紙	20.0 × 28.0cm		
		別子銅山		鉛筆・水彩・紙	25.0 × 35.0cm		
		四阪島		鉛筆・水彩・紙	26.0 × 35.0cm		
		新居浜	1940年	鉛筆・水彩・紙	26.0 × 35.0cm		
		ミカン摘み		墨・紙	35.0 × 29.0cm		
		風景 (戸隠)		水彩・コンテ・紙	29.0 × 36.0cm		
		中禅寺湖	1958年	鉛筆・水彩・紙	29.0 × 40.0cm		
		宗谷 (南極)		水彩・紙	21.0 × 32.0cm		
		南極		インク・水彩・紙	20.0 × 32.0cm		
		マラヤの装い	1946年頃	墨・紙	36.0 × 27.0cm		
		婦人像		鉛筆・紙	40.0 × 28.0cm		
		椅子とカバン		鉛筆・紙	25.8 × 20.8cm		
		夏	1948年	油彩・カンヴァス	91.0 × 73.0cm		
		夏の家	1964年	油彩・カンヴァス	116.5 × 91.0cm		
		茶碗		墨・水彩・紙	27.0 × 37.0cm		
		茶碗		墨・水彩・紙	27.0 × 32.5cm		
		茶碗		墨・水彩・紙	25.0 × 23.0cm		
		つゆ草		墨・水彩・紙	26.0 × 22.0cm		
		野菊		墨・水彩・紙	33.0 × 24.0cm		
		赤まんま		墨・水彩・紙	33.0 × 24.0cm		
		婦人像		墨・紙	29.0 × 40.0cm		
		婦人像 (緑蔭)		オイルパステル・紙	34.0 × 23.0cm		
		林		オイルパステル、水彩・紙	26.0 × 35.0cm		
		庭		インク・紙	35.0 × 28.0cm		
		庭		インク・紙	35.0 × 28.0cm		
		2階展示室	中村研一	備前半筒形	1950年頃以降	陶器	
				備前蓋物	1950年頃以降	陶器	
				備前カップ	1950年頃以降	陶器	
				備前角形水指	1950年頃以降	陶器	
				備前杵形	1950年頃以降	陶器	
				備前半筒形		陶器	
				備前面取角皿 (4点)	1950年頃以降	陶器	
				九谷絵茶碗 藤ノ絵	1950年頃以降	陶器	
				九谷丸皿 あざみ図	1958年	陶器	
九谷丸皿 菖蒲図	1950年頃以降			陶器			
九谷大皿 パラ図	1954年			陶器			
大樋碗形	1950年頃以降			陶器			
志野筒形				陶器			
志野熊川形				陶器			
信楽桃形				陶器			
信楽半筒形	1959年			陶器			
信楽角深皿透し入り				陶器			
常滑水指 銘 秋野	1957年			陶器			
出雲筒形				陶器			
出雲取手付猫面壺	1950～59年			陶器			
出雲花瓶 赤まんま図	1950～60年			陶器			
出雲深皿 ドンキホーテ図				陶器			
出雲浅皿 羊頭付				陶器			
出雲浅皿 雉頭付				陶器			
出雲浅皿 鶏頭付				陶器			
出雲取手付手壺	1954年			陶器			



## 日々の花々

会 期 平成 26 年 3 月 29 日（土）～平成 26 年 6 月 1 日（日）

会 場 1 階・2 階展示室

開催日数 56 日

観 覧 料 一般 200 円、小中学生 100 円

※未就学児、障害手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料

※ 5 月 11 日（日）は無料観覧日（5 月 14 日の中村研一誕生日を記念して）

入場者数 1,923 人

一日平均 34 人

出品点数 66 点（1 階 34 点，2 階 32 点）

担 当 者 中村 めぐみ

協 力 東京学芸大学デザイン研究室



### 開 催 趣 旨

野に咲く花も含め、常に花を飾ることを好んだという洋画家・中村研一。小金井に居を構え自然を愛した中村にとって、花は身近なモチーフであり、油彩で鮮やかに描かれた生命力あふれる花、水彩表現によるみずみずしく可憐な花など、その日その時の花の美しさを、中村は確かな描写力によって表現している。中村の写実表現からは、自然を愛でるまなざしの中にモチーフの本質と向き合う厳しさを感じることができる。本展覧会では中村が好んだ“花”をモチーフにした絵画、陶芸作品 66 点を紹介した。

また、小特集「中村研一と光風会」と題し、2014 年 4 月に開催された光風会第 100 回展にちなみ、所蔵作品から中村の光風会出品作品や関連作家の作品・資料を紹介した。官展での活躍が知られている中村だが、仏留学から帰国した翌年に光風会会員となり、生涯にわたって作品を発表している。精力的に活動する中村を慕い、数多くの光風会会員達が訪れ、親交を深めたこの小金井の地で、中村の交友関係と光風会史を振り返ることを目的とした。

関 連 事 業

(1) 読み聞かせ会「親子で美術館を楽しもう！～おはなしのへや～」

内 容：小さな子どものいる方にも美術館を楽しんでもらうため、ボランティアによる絵本の読み聞かせ会を開催した。読み聞かせだけでなく簡単な創作活動も行い、第1回は本展覧会のテーマにちなみ《ゆびで花を咲かせよう！》と題し、クレパスの粉を使い指で花の絵を描いた。第2回《野菜でぺったん！こいのぼり》は、色々な野菜のスタンプでうろこ模様を自由に表現し、こいのぼりを創作した。

日 時：①平成26年4月26日(土) 14:00～16:00

②平成26年5月5日(月・祝)14:00～16:00

会 場：2階多目的講義室

参加費：無料(要観覧券)

申 込：不要(当日受付・出入り自由)

協 力：こごうちぶんこ ことりのへや

参加者：①37人(大人17人、子ども20人) ②14人(大人7人、子ども7人)



(2) ワークショップ「“けんぼしゃん”とあそぼう！～コラージュでつくる花便り～」

内 容：当館恒例のコラージュワークショップを、本展覧会のテーマに併せ、色々な紙やテープを切り貼りして、花をモチーフにしたメッセージカードを創作した。

日 時：平成26年5月3日(日)13:30～15:00

会 場：2階多目的講義室

参加費：無料(要観覧券)

対 象：どなたでも(小学4年生以下は保護者同伴)

参加者：12人

主要関連記事

(1) 新聞

「所蔵作品展 日々の花々 はけの森美術館で開催中」小金井新聞、2014年4月21日

「美博ピックアップ 所蔵作品展 日々の花々 中村研一記念小金井市立はけの森美術館」朝日新聞、2014年5月14日

(2) 雑誌

「日々の花々」『ほうじんむさしの』No. 414、2014年5月5日

[作品リスト]

日々の花々 会期 平成 26 年 3 月 29 日 (土) ~ 6 月 1 日 (日)

	作者	題名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
1階展示室	中村研一	花	1924 年	油彩・カンヴァス	51.8 × 44.2cm
	中村研一	静物	1947 年	油彩・カンヴァス	53.0 × 45.5cm
	中村研一	ナデシコ	1948 年	油彩・カンヴァス	53.0 × 45.5cm
	中村研一	花 (アヤメ)		油彩・カンヴァス	45.5 × 38.0cm
	中村研一	花	1950 年	油彩・カンヴァス	60.7 × 50.0cm
	中村研一	花	1960 年	油彩・カンヴァス	91.0 × 72.8cm
	中村研一	バラ	1962 年	油彩・カンヴァス	90.5 × 73.0cm
	中村研一	イタリアの壺	1965 年	油彩・カンヴァス	80.5 × 65.5cm
	中村研一	バラ (絶筆)	1967 年	油彩・カンヴァス	40.9 × 31.8cm
	中村研一	ふしくろせんのう	1946 年	インク、墨、水彩・紙	26.0 × 34.0cm
	中村研一	あやめ			28.0 × 34.0cm
	中村研一	野菊		墨、水彩・紙	33.0 × 24.0cm
	中村研一	紅梅	1946 年	墨、水彩・紙	34.0 × 25.0cm
	中村研一	花		墨、水彩・紙	48.0 × 36.0cm
	中村研一	チューリップ		墨、水彩・紙	52.0 × 36.0cm
	中村研一	アネモネ		墨、水彩・紙	52.0 × 36.0cm
	中村研一	バラ		墨、水彩・紙	52.0 × 36.0cm
	中村研一	ドクダミ		インク・紙	30.0 × 24.0cm
	中村研一	ゆり	1946 年	インク、水彩・紙	60.0 × 45.0cm
	中村研一	三色すみれ		墨・紙	14.0 × 19.0cm
	中村研一	早春	1962 年	油彩・カンヴァス	91.0 × 73.0cm
	中村研一	夏の家	1964 年	油彩・カンヴァス	116.5 × 91.0cm
	中村研一	夏	1950 年	油彩・カンヴァス	116.7 × 90.9cm
	石井柏亭	朝の雲	1955 年	油彩・カンヴァス	15.0 × 21.0cm
	中沢弘光	島原の女 (雪の追憶エスキース)	1929 年	油彩・板	28.0 × 22.5cm
	高光一也	カイロを想う	1985 年	油彩・カンヴァス	162.0 × 130.5cm
	村岡平蔵	裸婦	1965 年	油彩・カンヴァス	145.5 × 112.1cm
	辻永	蓼科 (風景)	1938 年	油彩・板	24.3 × 33.4cm
	長原孝太郎	農家 (風景)	1918 年	油彩・板	23.0 × 32.0cm
	中村研一	仔猫		油彩・板	33.5 × 24.0cm
	岡田三郎助	水辺		墨・紙 (板裏打ち)	21.0 × 30.5cm
	南 薫造	熟麦庵 見取図	1949 年	墨、彩色・紙	33.5 × 33.5cm
	中村研一	小金井住家の図	1958 年	墨、彩色・紙	30.0 × 60.0cm
2階展示室	中村研一	静物	1959 年	油彩・カンヴァス	53.0 × 45.5cm
		花を生ける	1963 年	油彩・カンヴァス	91.0 × 72.8cm
		静物		墨、水彩・紙	32.0 × 24.0cm
		花束をもつ女		インク・紙	36.0 × 25.0cm
		九谷焼大皿下図 (カーネーション)	1954 年頃	コンテ、水彩・紙	56.0 × 45.0cm
		九谷焼大皿下図 (八重樺)	1955 年頃	墨、水彩・紙	59.0 × 48.0cm
		九谷焼大皿下図 (菖蒲) (錦木)	1956 年頃	墨、水彩・紙	54.3 × 52.5cm
		九谷焼大皿下図 (山吹)	1954 年頃	鉛筆、水彩・紙	47.0 × 60.0cm
		うつぎ九谷半筒形茶碗下図		墨、水彩・紙	29.0 × 30.0cm
		静物		墨・紙	31.3 × 27.5 cm
		備前カップ			
		出雲取手付猫面壺	1950 ~ 59 年		
		出雲花瓶 赤まんま図	1950 ~ 60 年		
		九谷絵茶碗 藤ノ絵 (素地:金重素山)			
		九谷大皿 牡丹図			
		九谷香合 梅図			
		出雲カップ 薔薇図			
		瀬戸絵付飾皿 蘭図	1951 年		
		出雲深皿 藤図	1954 年		
		瀬戸飾皿 紫陽花図			
		瀬戸飾皿 蘭花図	1951 年		
		九谷半筒形 うつぎ図			
		瀬戸丸皿 バラ図			
		瀬戸飾皿 カラー図			
		九谷丸皿 あざみ図			
		九谷丸皿 菖蒲図	1949 年		
		九谷丸皿 花図			
		瀬戸絵付デミタス すみれ図			
		備前花生	1950 ~ 1962 年		
		九谷大皿 バラ図			

## 企画展



(平成 25 年度市町村立美術館活性化事業 第 14 回共同巡回展)

岐阜県美術館蔵 コレなんだ？

佐藤慶次郎のつくった不思議なモノたち

会 期 平成 25 年 10 月 12 日 (土) ~ 11 月 17 日 (日)

会 場 エントランス・1 階展示室・ラウンジ

※ 2 階展示室は所蔵作品を展示

開催日数 32 日

観 覧 料 一般 500 円・小中学生 200 円

※ 未就学児および障害者手帳をお持ちの方は無料

入場者数 2,030 人

一日平均 63 人

出品点数 32 点 (2 階展示室 31 点)

担 当 者 荒木 和

主 催 小金井市立はげの森美術館

第 14 回共同巡回展実行委員会

(佐世保市博物館島瀬美術センター、

安城市民ギャラリー)

特別協力 岐阜県美術館

助 成 財団法人地域創造



### 開 催 趣 旨

佐藤慶次郎 (1927-2009) は、1950 年代に分野を越えた活動を展開した「実験工房」に参加した作曲家として知られる一方で、1970 年前後から生涯にわたって、医療器具や音響機器の部品を利用した「不思議な振動するオブジェ」を制作した。現象の発見の中から試行錯誤しながら生み出された佐藤のオブジェが発する軸の振動や磁気の振動、渦、音によるユーモラスな、あるいは荘厳なパフォーマンスをみつめ、対話するうちに、鑑賞者もそれらと一体化し、そこで起こっている「何ごとか」を感じとることができる。本展覧会では岐阜県美術館が所蔵する作品から 32 点を展示し、そのユニークな作品世界を紹介した。2 階展示室では秋を感じる作品を中心に、油彩画や素描、陶器など、中村研一の作品を紹介した。

(1) ワークショップ

①レインスティックをつくろう！

内 容：市町村立美術館活性化事業の主要事業の一つ「地域交流プログラム」として、NPO 法人アートフル・アクションに企画及び講師・アシスタントのコーディネートに依頼し、公立美術館と地域の芸術文化活動との連携を図った。本企画では、紙筒に入れる材料の数や組み合わせによって音色の変わる楽器・レインスティックを創作した。

講 師：いしかわ☆まりこ（造形作家・おもちゃ作家）

会 場：2階多目的講義室

参加費：300円

対 象：5歳児～小学4年生（保護者同伴）

参加者：15人

協 力：NPO 法人アートフル・アクション



②佐藤さんの作品の仕組みをみる・つくる

内 容：本展アドバイザーの石川喜一氏を講師に迎え、佐藤慶次郎作品と同じ原理で動くオブジェづくりを行い、制作過程を追体験した。コイル、小さな磁石、ワイヤーなど佐藤が用いたものと同様の部品を使った工作を行った。

日 時：平成25年11月3日（日・祝）13:30～15:30

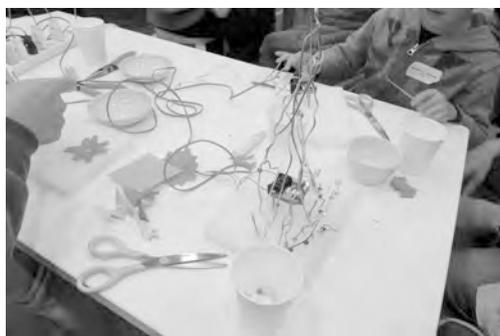
講 師：石川喜一（佐藤慶次郎作品制作アシスタント・本展アドバイザー）

会 場：2階多目的講義室

参加費：無料

対 象：どなたでも（小学4年生以下は保護者同伴）

参加者：22人



### ③ライブ・ステレオ・スコープを作ろう

内 容：市町村立美術館活性化事業の主要事業の一つ「地域交流プログラム」として、NPO 法人アートフル・アクションに企画及び講師・アシスタントのコーディネートに協力を依頼し、公立美術館と地域の文化芸術活動との連携を図った。本企画では、アーティストのクワクボリョウタ氏を講師に迎えて光学機器の原理を組み合わせた、スクリーンに映した像が立体的に見える「おもしろ眼鏡」を工作した。

日 時：平成 25 年 11 月 17 日（日）13:30～15:30

講 師：クワクボリョウタ（アーティスト）

参加費：1,300 円

対 象：小学 5 年生以上

会 場：2 階多目的講義室

参加者：14 人

協 力：NPO 法人アートフル・アクション



#### 主要関連記事

##### (1) 新聞

「第 14 回共同巡回展」小金井新聞、2013 年 11 月 1 日

「不思議なオブジェ小金井で 32 点展示」読売新聞（武蔵野版）、2013 年 10 月 26 日

##### (2) 雑誌

「岐阜県美術館蔵 コレなんだ？ 佐藤慶次郎のつくった不思議なモノたち」『書道界』11 月号、2013 年 11 月 15 日

「岐阜県美術館蔵『コレなんだ？ 佐藤慶次郎のつくった不思議なモノたち』」『芸術批評誌リア』No.31、2014 年 2 月 28 日

##### (3) 放送

「ジモトピ 府中・小金井・国分寺」ケーブルテレビ J:COM 東京、2013 年 10 月 21～27 日放送

「いまだこイレブン」ケーブルテレビ J:COM 東京、2013 年 10 月 4 日

[作品リスト]

岐阜県美術館蔵 コレなんだ？佐藤慶次郎のつくった不思議なモノたち

会期 平成25年10月12日(土)～11月17日(日)

作者	題名	制作年	技法・材質
1階展示室	佐藤慶次郎	オーバー ザ ウェーヴス	1974 ステンレス線、マグネット・リング、石膏
		オテダマ	1974 アクリル棒、マグネット・リング、石膏
		ヒマワリ	1974 アクリル棒、マグネット・リング、石膏
		回転シーソー	1974 アクリル棒、マグネット・リング、石膏
		トゥイン	1974 銅線、マグネット・リング、石膏
		オシボリ	1974 ステンレス線、マグネット・リング、石膏
		カボチャ	1974 アクリル棒、マグネット・リング、石膏
		花開	1974 銅線、マグネット・リング、石膏
		尺トリムシ	1974 アルマイト線、マグネット・リング、紙、石膏
		フォア アーチス a.	1974 銅線、マグネット・リング、石膏
		フォア アーチス b.	1974 銅線、マグネット・リング、石膏
		日時計 a.	1974 アクリル棒、マグネット・リング、石膏
		日時計 b.	1974 アクリル棒、マグネット・リング、石膏
		タイム	1974 マグネット・リング、マグネット棒、石膏
		マンダラ セミルナーリス	1974 マグネット・リング、鉄棒、石膏
		フォンタナ	1974 アルミニウム線、マグネット・リング、鏡、石膏
		フィメール	1974 アルミニウム線、マグネット・リング、石膏、紙
		銀河鉄道	1974 銅線、マグネット・リング、石膏
		オッパイ (実験機)	1974 銅線 (テフロン加工)、マグネット・リング
		パピヨン (実験機)	1974 アルマイト線、マグネット・リング
		銀河鉄道 (実験機)	1974 銅線 (テフロン加工)、マグネット・リング
		ヴォーテックス パフォーマンス	1976 ガラス瓶、水、マグネット、プラスチック球
		垂直都市	1980 ステンレス棒、マグネット・リング
		ススキ 4D	1980 真鍮パイプ、スチロール円盤
		トンボあるいは二つずつのスノー	1980 アクリル棒、アクリル・リング、紙
		ハート?	1980 パイプ (アルマイト加工)、スチロール・リング
		沈黙のカルテット	1980 真鍮パイプ、スチロール球
		エレクトロニック ラーガ	1980 ステンレス球、電子回路
		フォーケ	1983 木の棒、スチロール球
		サスペンション L2B	1983 ステンレス・パイプ、スチロール球
		ススキ 3B	1992 ステンレスの軸、スチロール球
岐阜ススキ群 '99	1999 ステンレス・パイプ、スチロール球		

\*以上、岐阜県美術館蔵

作者	題名	制作年	寸法 (cm)	技法・材質	
2階展示室	中村研一	秋	1965年頃	50.0 × 60.5cm	油彩・カンヴァス
		婦人像		91.0 × 73.0cm	油彩・カンヴァス
		秋		25.0 × 34.0cm	油彩・カンヴァス
		フランス風景	1923年	60.5 × 50.0cm	油彩・カンヴァス
		室内図 (居室兼茶ノ間兼画室兼書斎図)	1930年	26.5 × 35.5cm	インク、墨、水彩・紙
		小金井住家の図	1958年	30.0 × 60.0cm	墨、彩色・紙
		くり		24.0 × 25.5cm	オイルパステル、水彩・紙
		静物 (くり)		25.5 × 36.0cm	水彩、鉛筆・紙
		ざくろ		25.0 × 33.0cm	インク、墨・紙
		山茶花		30.0 × 39.0cm	墨、彩色・紙
		果物		26.0 × 39.0cm	墨、水彩・紙
		九谷小皿 (旦那様用・奥様用)	1950年以降		陶器
		九谷丸皿 菊図	1953年		陶器
		九谷丸皿 薔薇図	1950年以降		陶器
		九谷飾皿 栗図	1950年以降		陶器
		出雲花瓶 赤まんま図	1950～60年		陶器
		出雲大皿 うまたで図	1954年		陶器
		常滑水指 銘 秋野	1957年		陶器
		信楽半筒形 銘 初雪	1950年以降		陶器
		信楽半筒形	1959年		陶器
		出雲取手付猫面壺	1950-59年		陶器
		出雲取手付手壺	1954年		陶器
		出雲浅皿 羊頭付	1950年以降		陶器
		出雲浅皿 雉頭付	1950年以降		陶器
		出雲浅皿 鶏頭付	1950年以降		陶器
		瀬戸飾皿 鳥図	1950年以降		陶器
		瀬戸飾皿 有翼牡牛図	1950年以降		陶器
		瀬戸飾皿 ライオン図	1950年以降		陶器
		瀬戸飾皿 頭柱図	1950年以降		陶器
		瀬戸飾皿 大天使	1950年以降		陶器
		瀬戸飾皿 キリスト図	1950年以降		陶器
		瀬戸飾皿 キリスト図	1950年以降		陶器